



水辺のしずば

No.4

2007年 12月1日発行



加治川の鮭漁（「私の加治川写真コンテスト」応募作品より）

自然観察シリーズ

池沼探検隊④

旧加治川村の用水路

第八回池沼調査は加治川地区の用水路で行われました。

一昨年の第六回調査が当地区でしたが、雨で室内学習会となったので、今回再挑戦となりました。

晴天に恵まれての調査となった今回は、加治川地区公民館の協力もあり、おおよそ10名の子も保護者などが集まりました。調査場所は二か所です。

一か所目は横岡地区の用水路で、浅くきれいな水が流れていました。ここで31メートル区間を網で仕切り、生き物採取しました。見た目では生き物は少なそうに思えたのですが、ヨシノボリやカジカ、タモロコにモズクガニ、昆虫ではオニヤンマ

宝物 みつけた

鯛の生菓子

昔、冠婚葬祭の際によく目にしたお菓子といえば、粉菓子や生菓子。粉菓子の材料は餅米を粉にした焼味甚粉、うるち米を粉にした早粉です。冠婚葬祭のスタイルが変わるにつれ、それまで主流だった粉菓子が減り、生菓子がとって代わります。生菓子は、外餡と中餡に分かれていて、材料に白餡はいんげん豆や白小豆、赤餡は小豆を使います。お菓子のデザインは、鯛、鶴、亀、海老、蓮などの型を用いたもので、それぞれ職人が腕を競いました。

冠婚葬祭、特に結婚式の変化はお菓子に大きく影響を与え、式菓子も様変わりし、鯛の生菓子も姿を消してきました。式菓子は、小振りになったり、洋菓子の技術が持ち込まれたり時代とともに変化していきます。家族みんなで囲んで食べたあの大きな鯛の生菓子は、遠い日の記憶となってしまいました。

早道場の金子屋老舗には、今でも鯛の生菓子が店頭で並んでいますが、大きいものは予約注文になります。たまには大きな鯛の生菓子をみんなで分け合って食べてみてはいかがでしょうか？



スナヤツメがいたよ。

やカワトンボのヤゴがたくさんとれました。二か所目は金山の用水路です。ここでは、19メートル区間でアブラハヤが66匹、絶滅危惧種に指定されているホトケドジョウも見ることが出来ました。二つの区間は1.5キロ程度しか離れていませんが、水路の深さや流速等わずかな違いで棲息種がずいぶん異なることがわかりました。

しずばの自然

冬の野鳥

冬季に到来する渡り鳥を冬鳥といいますが、10月初旬に各地に飛来し、4月に北の繁殖地に戻っていく渡り鳥の総称です。

新発田野鳥の会のホームグラウンドである五十公野公園にも、数多くの冬鳥が飛来しますが、その代表的なものが升潟に来るハクチョウとカモです。



ハクチョウはオオハクチョウとコハクチョウの二種類で、体の大きさと嘴の基部の黄色い模様の違いで区別されます。升潟に来るハクチョウは、コハクチョウがほとんどで、最も数が増える12月には、二百羽以上が湖面を賑わしますが、その中でオオハクチョウの数はせいぜい三十羽くらいです。カモは冬季間四千羽以上いますが、約半分はマガモで、次がオナガガモの九百から千羽、カルガモが四百から五百羽。その他、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、稀にトモエガモ、ヒドリガモ、ミコアイサ（通称バンダガモ）と多彩です。

（新発田野鳥の会 川島長一）

学びの扉

五十公野公園生き物調査

～五十公野小学校～

9月18日（火）、五十公野公園を会場に、五十公野小学校四年生の総合学習「五十公野公園の生き物」が開催され、当会が講師を担当しました。

最初に児童代表に公園内の升潟から水を取ってもらい、その水質を調査し、各調査結果から判断する水質の健康度について説明。続いてアヤマ園脇の用水路で、弓網や長い柄の付いた網などを使って、それぞれ生き物の捕獲です。

約一時間の捕獲作業を終えたあとは、捕まえたものをみんなで観察。講師が種類や生態などをわかりやすく説明すると、児童たちは興味深く聞き入っていました。中には、家に生き物を持ち帰りたいと、その飼育方法などの説明を熱心に質問する児童もいました。

オニヤンマの

ヤゴやトノサマガエルを飼いたいという児童もいました。餌の確保や温度管理などで飼育が難しいと聞き、捕まえた生き物を升潟の水路に放していました。



升潟の水質はどうか。

編集後記

10月末、福井県大野市で開催された「湧水保全フォーラム全国大会」に参加してきました。大野市は古くから地下水が豊富で、市内にはイトヨ生息地として国の天然記念物に指定されている「本願清水」をはじめ、多くの湧水地があります。しかし、近年はその地下水位が低下しているそうです。地球環境の変化で「よい環境を次代へ引き継ぐこと」が、本当に難しくなっていることを感じました。

フォーラム基調講演での話を一つ。平成10年に文部省で実施した子ども体験調査結果によると、子どもの道徳感、正義感の強さは自然体験の有無に関係があり、自然体験を多くした子どもには、正義感の強い子が多いそうです。当会の活動は自然体験そのもの。活動に参加する子どもたちが、正義感、道徳感の強い人に育つことを期待しながらこれからも活動していきます。

御意見、御感想などありましたら、事務局までお知らせください。

NPO法人 加治川ネット21

会員募集

年会費：個人 2,000円 / 法人 5,000円

事務所所在地：新発田市小戸886-1

電話：(0254) 31-4111

FAX：(0254) 31-4088

Mail: kjn21@ml.shibata.ne.jp

ホームページアドレス：

<http://www.inet-shibata.or.jp/~kjn21/>

会費振込先：

郵便局 00500-5-35812

地域を愛する……

「限りある地球の資源を大切に」

NPO法人ユ-＆ミーの会



収穫を通して食育を

- 危険される自然環境の悪化や食の不安について、「今私たちに出来ること」の観点から、生ごみの分別指導や教育を通して、地域の環境改善をめざし日々活動しています。
- 主な活動は、
- ① 地域の「協力家庭」の生ごみを自主回収し、有機堆肥センターで堆肥の原料としてもらう
 - ② 6モデル地区の生ごみ分別指導
 - ③ 有機堆肥使用の農産物販売
 - ④ 各種イベントで環境問題の提起
 - ⑤ 小学校給食残さの分別指導回収
 - ⑥ 講師として大学や小中学校に出席など。

【お問い合わせ】
電話 0254-23-6110
(NPO法人ユ-＆ミーの会事務局)

環境豆知識

環境会計

環境会計とは、企業等が環境保全活動にかかるコストやその効果を定量的に把握するための手法であり、環境対策費の費用対効果や省エネルギー効果等、実益とのバランスをとる際の意志決定に利用されます。

消費者の環境意識の向上に伴い、環境保護活動に取り組む企業は増えていますが、直接には収益に結びつきにくいことから、企業にとって環境保護活動を推進しにくいのも現実です。

そこで環境保全活動の成果を金額に換算して、費用対効果を検証するための手法として、環境会計を用いているのです。

環境会計は次の3つの構成要素からなります。一つは省エネ対策等の「環境保全コスト」、二つ目はその投じた費用の成果を節約できた重量や物量で表現する「環境保全効果」、そしてこれらを金銭的メリットに換算した「環境保全対策に伴う経済効果」です。

出典参考：
IT Pro Keyword 日経情報ストラテジー



わいわいがやがや判定会

な形をした、かつ、恐ろしく臭い草を見つけた人もおり、マツタケには出会えなかつたものの楽しい観察会となりました。五十公野山は遊歩道以外の下草刈りがほとんど行われておらず、笹等の繁茂により、地表に日が差さないため、きのこの生育にはよくないようでした。また、松くい虫被害木の伐採も進められているものの、またまた立ち枯れた松も多く、処分された松が現地に放置されているために、

生き物にやさしい環境を
エコトーン創出事業

9月29日(土)、太斎地区のかんがい用ため池に、生き物の棲める空間(エコトーン)づくりが行われました。当日は荒橋小学校児童や新発田農業高校生徒、土地改良区、県新発田地域振興局の方々など約50人が集まり、エコトーンのための粗朶(そだ)組みや盛土などを行う「作業班」と、生き物観察を行う「調査班」に分かれました。作業班は、前日までに造ってあった一

荒廃が一段と進んでいるように感じられました。広大な五十公野公園の管理を行政だけで行うには限界があり、市民一人ひとりが五十公野山の現状を認識し、地域の宝として守っていく必要性を強く感じさせられました。

段目の粗朶組みに続けて生態系緑地の二段目の施工を始めました。粗朶組み作業を体験したいという小学生の女の子も参加して、専門職人の指導を受けながら、事故もなく粗朶組み作業終了。続く盛土作業では、土工機械の威力も借りながら、全ての作業を約2時間で終了しました。調査班は、二ヶ所で調査を行いました。一ヶ所目はため池内。ため池が整備されてから2年しか経過していないにもかかわらず、多いところでは20センチ以上の土砂(泥)が堆積していました。それでも約30分間の作業で、イバラトミヨ、ウグイ、カマツカ、ドジョウなどたくさん魚類を捕まえることができました。二ヶ所目は、最初にイバラトミヨを発見した「六日町の水路」です。水路は前日の雨で水嵩が増し、イバラトミヨは捕まらなかつたものの、スナヤツメ、ホトケドジョウなどのほか、オニヤンマ、コオニヤンマ、コシボソヤンマなどのヤゴを



みんなで粗朶組み

◆お詫び◆
先号あやめ生活学校の記事で、レジ袋削減目標三千枚は三万枚の間違いでした。お詫びして訂正します。

確認しました。お昼ごろ、作業班と調査班が合流して、みんなでエコトーンの植樹を行い、この日の作業は終了しました。このように市民と行政が協力して、エコトーンが創出されるのは珍しいことだそうです。

レポート

”天然プール”で
加治川探検隊



水切りに挑戦。「うーん、難しい。」

夏休みの恒例事業となった加治川ネットの「ほくらは加治川探検隊」は、7月29日(日)、折しも参議院選挙投票日と同日の、しかも梅雨前線の影響で今にも雨が降り出しそうな中で開催された。場所はいつもの通称「天然プール」。

少雨決行ということで加治川は少し水嵩を増していたものの、子どもたちは苦にすることなく、加治川へ着くなり着替えて川に入り、泳ぎを満喫。今回参加した人の中には、加治川探検がおもしろいということで、複数回参加の人たちもいました。

当日のスケジュールは、当会会員が講師を務めての生き物観察会と水鉄砲づくり、水切りなど。少々雨は降ったものの、駆け足で事業を進め、午後1時に終了。

参加者の一人は、「この加治川天然プールは、自分が子どもの頃から馴染みだ所だが、今度は孫と一緒に来る事が出来た。本当に素晴らしい環境だ。ぜひとも、新発田の財産として後世に伝えていきたい場所だね」と言っていました。

新発田市では加治川の天然プールの運営を止めようという意見が出ています。季節限定ではありますが、子どもたちの掛け替えのない最高の遊び場を、これからも提供していただきたいと思っています。

五十公野山の現状を知ろう
きのこ観察会

五十公野山は赤松を主体とした身近な里山です。この里山の現状を知ろうと10月13日(土)、加治川ネット主催のきのこ観察会が開催されました。

当日は当会会員のほか、インターネットを見たという胎内市や新潟市の大学生の参加もあり、賑やかなものとなりました。

五十公野山は昔からマツタケで有名な山。「きのこ観察会」という崇高な開催目的の陰で、「今日は土瓶蒸しに焼きマツタケ。ああーいっぱい採れ過ぎたらどうしよう」などという邪な気持ちを抱きつつ、目を皿のようにしてきのこを探し。しかし、いかんせん生えているところを見たこともないという致命的な経験不足もあり、収穫は……。

約2時間の探索の後、各自が採ったきのこを宮野理事に判定してもらいました。中にはスッポン茸という恐ろしく卑猥

加治川ネット21 設立10周年記念事業

小学生による
環境学習発表会

加治川ネット21も満10歳。そこで記念事業として、新発田市など共催で、11月18日、生涯学習センターで「環境学習発表会」を開催しました。発表は市内の小学校5校。その模様を写真で紹介します。



①米倉小学校
「地域の生き物があぶない!」



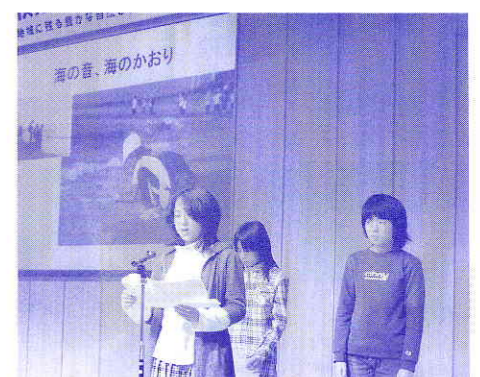
②荒橋小学校
「みんなでイバラトミヨを守ろう」



③御免町小学校
「豊かな水辺～きれいな新発田川にするために～」



④中川小学校
「環境調査隊～私たちの加治川から」



⑤藤塚小学校
「海を教室に 地域を学び舎として」